

## 思考し表現する力を高める指導法の研究

### ― 書く力の向上をめざして―

#### 1. 設定理由

現代社会は、多様な人々が多様な価値観や考え方をもちて行き交っている。その中に飛び立ってゆく生徒たち一人ひとりがよりよく生きていくためには、互いの立場や考え方を尊重して、言葉による伝え合いを円滑にしていく必要がある。そのために国語科では、社会に必要な言葉による伝え合いの大切さを自覚し、実践していく学習が重要であると考えられる。本校の生徒は明るく素直で、学習全般に対しても前向きな態度で取り組んでいる。国語の授業にも落ちついた態度で取り組み、積極的に発言できる生徒もいるが、「書くこと」の学習においては、自己の考えや思いを適切に伝えたり、根拠を明確に示して自分の考えを表現する力は十分とはいえない。そこで、本校の国語科では「書くこと」の学習において、生徒たちが生き生きと取り組むことができるような学習活動を工夫することで、主体的に思考し、表現する力をもった生徒を育成していきたいと考え、本テーマを設定した。

#### 2. 研究仮説

- (1) 「書くこと」の活動において、学習の進め方を改善し、学習の手順を明確に示して、段階を踏んだ支援をしていけば、主体的に思考し、表現する力を身につけることができるであろう。
- (2) 「書くこと」の活動において、相互評価の工夫をしていけば、生徒の意欲が喚起され、主体的に思考し、表現する力が育っていくであろう。

#### 3. 研究内容

- (1) 授業の指導過程の改善と学習活動の工夫
- (2) 相互評価の工夫と活用

#### 4. 結論

- (1) 学習活動の進め方を改善し、段階を踏んだ支援をすることにより、生徒は学習の手順をよく理解して学習を進めることができた。その結果として、根拠を示しながら自分の思いや考えを明確に表現する力が身についてきた。
- (2) 相互評価の工夫により、友人の作品から学んだり、自分の作品を客観的に見直したりすることができた。そのことで、「書くこと」に対する意欲が高まり、次回の作品作りに友人からの助言や評価を生かそうとする姿勢をもつことができた。

香取支部  
香取市立栗源中学校

笹本 久子

## 1 研究テーマ 「思考し表現する力を高める指導法の研究

### — 書く力の向上をめざして—

## 2 テーマ設定の理由

現代社会において、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化している。多種・多様な価値観や考え方の人々が行き交う現在の社会の中で、一人ひとりがよりよく生きていくためには、互いの立場や考え方を尊重して、言葉による伝え合いを円滑にしていく必要がある。学習指導要領では「生きる力」の育成を基本とし、国語科では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を尊重する態度を育てる。」ことを目標として掲げている。

平成28年度の全国学力状況調査において、本県の国語科「書くこと」の成果と課題を見ると「集めた材料を整理して文章を構成することと、文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くこと」が全国を上まわっている。一方、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと」は全国を下回っている。平成28年度香取市小中学校標準学力調査においては、本校の生徒は「話すこと・聞くこと」の正答率は香取市の平均を上回っているが、「書くこと」の正答率は下回っている。

本校では、「将来の向かって本気で取り組む、豊かさと強さをもった生徒の育成」を学校目標として、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指して教育活動を行っている。本校の生徒は、明るく素直で、礼儀正しく、中学生らしい態度で生活している者が多い。学習全般に対しても前向きな姿勢で取り組んでいるが、学力の定着という面では十分とは言えない。特に「書くこと」について、本校生徒の意識調査（本校国語科で実施）の結果を見ると、「作文」「書くこと」を苦手とする生徒は少なくない。（「書くこと」の学習が苦手・どちらかという苦手であると答えた生徒→1年12名／24名 2年10名／28名 3年19名／28名）また、自分では書くことについて、得意であると思っている生徒でも、その作品を見てみると、意見文など根拠を明確にして書く文章については十分に書けているとはいえない。また、「書くこと」を苦手とする生徒にとっては、テーマや題材を与えられただけでは、どのように書き進めたらよいのか、戸惑い、一人ではなかなか取りかかれない場合が多い。

これらのことを受けて、本校国語科では、様々な「書くこと」の学習において、生徒たちが生き生きと取り組むことができるような学習活動を工夫することで、主体的に思考し、表現する力を持った生徒を育成していきたいと考え、本テーマを設定した。

## 3 研究のねらい

本校の研究主題は「主体的な学びを生み出す授業づくり—思考力・判断力・表現力の育成をめざして—」である。これを受けて、国語科では特に「思考し、表現する力」の育成に力を入れて、実践を重ねてきた。「書くこと」「話すこと」等の様々な表現活動を通して、自分の考えや知り得た情報を的確に表現することに対して、意欲をもって積極的に取り組んでいく生徒を育てていきたい。

## 4 研究仮説

- (1)「書くこと」の活動において、学習の進め方を改善し、学習の手順を明確に示して、段階を踏んだ支援をしていけば、主体的に思考し、表現する力を身につけることができるであろう。
- (2)「書くこと」の活動において、相互評価の工夫をしていけば、生徒の意欲が喚起され、主体的に思考し、表現する力が育っていくであろう。

## 5 研究内容

- (1) 授業の指導過程の改善と学習活動の工夫  
(2) 相互評価の工夫と活用

## 6 研究の実際

【実践1】1年 根拠を明確にして書く「芸術作品の鑑賞文を書く」

(教科書「教育出版 中学国語 1」)

- ### (1) 目標

- ア 芸術作品から受けた印象を、鑑賞文にまとめる。  
イ 根拠を明確にして、文章を書く。

- ## (2) 学習活動の進め方

- イ 学習シートを用いて、学習の手順を確認する。＜次頁・学習シート①＞

- (ア)「印象—根拠—まとめ」の順で、構成を考える。

- ・一番強く心に残ったことを書く。(印象)
- ・観点を決め、作品から受けた印象の根拠をあげる。

- (イ)「文章の構成」「表現の工夫」についてのプリントや教科書71頁の作品例を参考にしながら、鑑賞文を書く。(下書き) **<資料1>**

**<資料1>**

**<資料2>**

- エ 下書きを読み直し、手直しする。(文字・表現・構成の確認)

- オ お互いの作品を読み合い、相互評価する。 ＜資料3＞

- (3) 学習を終えて〔生徒の感想から〕

- ア 今回、芸術作品の「鑑賞文」を書いてみて

- ・書きやすかった（6名） ・どちらかという書きやすかった（14名）  
・どちらかという書きにくかった（2名） ・書きにくかった（2名）

- イ 「書きやすかった」「どちらかという書きやすかった」のなぜですか。

(複数回答可)

- ・鑑賞文や表現のモデルが示してあったから…………… (6名)
- ・絵に関心がもてたから…………… (6名)
- ・書き方の観点(視点)が示してあったから…………… (5名)

《書く》根拠を明確にして書く「芸術作品の鑑賞文を書く」

一年（ ）組・氏名（ ）

活動の流れにそって学ぼう

〔1〕芸術作品を鑑賞し、「一番強く心に残ったこと」を書く。《印象》

〔例〕木々と白馬の生命力が感じられた。

・深い森の神秘的なふんいきが感じられた。  
・一頭でさまよう、白馬の孤独感が感じられた。・・・など

〔2〕「印象—根拠—まとめ」の順で、構成を考える。

※根拠・・・自分の考えを支える事実や事例。

《印象》・木々と白馬の生命力が感じられた。

《観点を決め、作品から受けた印象の調拠をあげる。全部の観点を書かなくてもよい》

・人物やもの―〔例〕「白馬」が立ち止まっていない。足をあげて生き生きと歩いている。

・色づかい―〔例〕木々が緑色の濃淡で色づけされ、まっすぐに伸びている。  
一番手前の緑がとてもし明るい。白馬は、真っ白で軽やかな動きを感じさせる。

・構成―〔例〕画面の上半分木々が並び、白馬は右端にいて左に進んでいる。静かさの中に動きがある。

・光と影―〔例〕白馬の体全体に光があたっていて、白馬の存在が強調されている感じ。白馬のまわりの緑にも光があたっていて明るい。

・題名―〔例〕「緑響く」という題名から、森林の「緑」と白馬の「白」が響きあっている感じがする。

《まとめ》

これらのことから、この絵からは木々と白馬の生命力が感じられる。

〔3〕教科書七十二ページの三つの絵から一つを選んで、鑑賞文を書く。

（七十一ページを参考に）

《書く》「芸術作品の鑑賞文を書く」一年・氏名（ ）

〔1〕教科書七十二ページから、作品を一つ選ぶ。

〔作品名〕

〔2〕「印象—根拠—まとめ」の順で、構成を考える。

☆自分が選んだ芸術作品を鑑賞し、「一番強く心に残ったこと」を書く。《印象》

《印象》

《観点を決め、作品から受けた印象の調拠をあげる―全部の観点を書かなくてもよい》

・人物やもの―

・色づかい―

・構成―

・光と影―

・題名―

《まとめ》これらのことから、この絵からは

である。（た）

- ・ 作文の構成の型が示してあったから……………（3名）
- ウ 「書きにくかった」「どちらかというと書きにくかった」のはなぜですか。
  - ・ 根拠が具体的にうまく書けなかった。
  - ・ うまく文章にまとめられなかった。
  - ・ 作文が苦手だから。
  - ・ まとめと根拠がうまくまとめられなかったから。

#### （4）学習指導のポイントと考察

- ア 学習に入る前に、様々な色のカードを見せて、そこから受ける印象を話し合ったり、教科書の作品に通じる「馬」の様々な絵やイラストを見せて、色との組み合わせでどのように印象が変わるかを話し合ったりした。生徒は新鮮味のある導入に、興味・関心を示して学習に入っていた。
- イ 学習シートを用いて、その絵に対する自分の印象を支える根拠を述べるための「観点」と例文を示した。そのため、生徒は「印象」と「観点」の結びつけ方、考えの書き方を学び、自分の鑑賞文に生かすことができたようだ。
- ウ 学習シートに観点別に自分の考えをメモの形で記入してから、文章の構成を考えて、文章にしていた。まず、思いつくことをどんどんメモさせてから、構成を考えさせたため、生徒は 比較的スムーズに進めていった。また、あらかじめメモ・構成ができていたので、文章に直す時も、それに肉付けする形でどんどん書き進めていった。学習の手順が明確に示されていれば、生徒は取り組みやすく、意欲的に活動することができる。また、文章の構成と書き方を例示することで、生徒はそれを参考にしながら、積極的に取り組んだ。
- エ 表現については、単に「明るい」「暗い」「元気がでる」「さびしそう」などの言葉だけにたよることなく、読み手のイメージを広げるような比喻等を必ず一つは入れて書いてみるようにすすめた。生徒は努力して取り組んでいた。
- オ 学習後の生徒の感想を見ると、「書きやすかった」「どちらかというと書きやすかった」という生徒が、全体の80%以上を占めていた。その理由としては、文章や表現のモデルが示してあったこと、書き方の観点（視点）が示されたことなどがあげられている。
- カ 学習後に互いの鑑賞文を読みあうという交流を行なったが、互いの良さを感じあうとともに、自分の鑑賞文を友人がどのように評価したのかを知ることでもできて、学習の振りかえり・反省をすることができた。

#### 【実践2】3年 書く「広告を批評する」（教科書 「教育出版 中学国語3」）

##### （1）目標

- ア 広告を比較して、批評文を書く。
- イ 効果的な構成について自分の考えを深める。

##### （2）学習活動の進め方

- ア 中学生に向けたペンの広告のコピー二種類を比べてどちらが効果的か話し合

う。→批評文の作文例を読む。

A 書く時のために、携帯すべき物がある。

B 「さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります」

イ 教科書38頁の批評文の例を読み、活動の流れを確認する。

ウ 二つの広告コピーを比較して、批評文を書く。

・広告コピー→「中学生に向けた夏の文庫本フェア」の広告

A 「ポケットに入る人生の相棒」

B 「実はペットボトル数本分で買えるんです」

エ 学習シートにしたがって、全体で確認すべき事項を押さえた後、批評の観点を絞って、自分の考えをメモの形でまとめる。＜次頁・学習シート②＞

・書き出しの例や使ってみたい言葉の例を確認する。

オ 構成（頭括型・尾括型・双括型）を考え、批評文を書く。＜資料4＞

カ 下書きを読み直し、推敲する。

キ お互いの作品を読み合い、相互評価する。

＜資料5＞

### （3）学習を終えて〔生徒の感想から〕

ア 今回、「批評文」を書いてみて

・書きやすかった（10名） ・どちらかというと書きやすかった（17名）

・どちらかというと書きにくかった（1名） ・書きにくかった（0名）

イ 「書きやすかった」「どちらかというと書きやすかった」のなぜですか。

（複数回答可）

・書き方の作文例（モデル）が示してあったから……（20名）

・広告のコピーにに関心をもてた（楽しかった）から…（15名）

・書き出しの例が示してあったから……（15名）

・学習の手順（進め方）がわかりやすかったから……（7名）

・批評の観点が示してあったから……（4名）

ウ 「書きにくかった」「どちらかというと書きにくかった」のはなぜですか。

・資料から読み取った内容についてメモは書けるが、文章にまとめるのが難しかったから。

### （4）学習指導のポイントと考察

ア 学習に入る前に、教科書は見せずに、ペンの広告のコピーのうちの一つ「さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります」を提示し、これは何の広告なのかを考えさせた。「川？」「流しそうめん？」などと自由な発想で話し合った後、もう一つのコピー「書くときのために、携帯すべき物がある。」を提示すると、「ああ～！」と納得。広告のコピーそのものに関心が高まったところで、今回の学習に入っていた。作文の苦手な生徒も「作文！」と構えることなく、関心をもって取り組むことができたようだ。

《書く》広告を批評する 三年（ ）番・氏名（ ）

活動の流れを確認しよう

↓教科書三十八ページ・批評文の例

\*批評・・・物事のもつよさや特性について評価すること。

次の二つの広告「コピー」を比較して、批評文を書こう

広告コピー

中学生に向けた夏の文庫本フェア の広告

A 「ポケットに入る人生の相棒」

B 「実はペットボトル数本分で買えるんです」

《確認》①何の広告か。(商品) ↓ 「 」

②誰に対する広告か。 ↓ 「 」

③どのような時期の広告か。 ↓ 「 」

○二つのコピーについて比べて、自分の考えを書いてみよう。(簡条書き・メモでよい)

| 《批評の観点》<br>商品のどのような性質を、どんな言葉で、表現したり強調したりしているのか。 | A |  |  |  |  | B |  |  |  |  |
|-------------------------------------------------|---|--|--|--|--|---|--|--|--|--|
|                                                 |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |
| AとBを比較するとどちらのほうが効果的だと思うか。<br>[自分の結論・理由]         |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |
|                                                 |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |
|                                                 |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |
|                                                 |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |
|                                                 |   |  |  |  |  |   |  |  |  |  |

【書き出しの例】

- ・ 広告のコピーの効果について考えてみたい。
- ・ AとBの広告を比較すると、・・・
- ・ 中学生に向けた文庫本の広告ならば・・・

【批評文を書くとき、使ってみたい言葉】

・・・であると思う。

なぜなら・・・からだ。(からである。)

それに対して・・・

一方、・・・は・・・

・・・というより、むしろ

たしかに

・・・する(と)が(よい)。(いい)。(よい)。

まるで・・・

よって・・・

ゆえに・・・

したがって・・・(と)、私は思う(→結論・まとめ)

- イ 活動の流れを確認した後、「中学生に向けた夏の文庫本フェア」の広告コピー二種類を比較し、批評文を書いた。全体で①何の広告か②誰に対する広告か③どのような時期の広告かという基本的な事項について確認した後、批評の観点を商品の「どのような性質」を「どんな言葉で」表現（強調）しているかという点にしばって考えさせた。批評の観点をしばったことで生徒は集中して考え、自分の考え（結論・理由）の骨組みをまとめることができた。
- ウ 学習シートに自分の考えをメモの形で記入してから、文章の構成を〔頭括型・尾括型・双括型〕から選び、文章にしていって。書き出しの例や「批評文を書くとき、使ってみたい言葉」などの紹介をして、作文の苦手な生徒の支援とした。いつもはなかなか書き出せない生徒も比較的スムーズに書き始めることができていた。
- エ 学習後の生徒の感想を見ると、「書きやすかった」「どちらかという書きやすかった」という生徒が、全体の90%以上を占めていた。その理由としては、文章の作文例（モデル）や書き出しの例が示してあったこと、作文の構成の型が示してあったことなどがあげられている。また、学習の手順（進め方）がわかりやすかったと答えている生徒も多かった。
- オ 学習後に互いの批評文を読みあうという交流を行なうことで、友人の作品に触れ、学ぶことも多かったようである。

【実践3】3年 書く「図表などの資料から文章を書く」（教科書 「教育出版 中学国語3」）

（1）目標

- ア 図表を読み取り、条件をふまえ、意見文を書く。
- イ 引用の仕方や論理の展開に注意し、文章を書く。

（2）学習活動の進め方の確認〔学習シートを用いる〕＜次頁・学習シート③＞

- ア 課題の条件を確認する。（教科書99頁参照）
  - （ア）段落構成
  - （イ）字数制限
  - （ウ）何を書くのか
- イ 資料を正確に読み取る。→わかったことをまとめる。
  - （ア）調査名
  - （イ）調査の内容
  - （ウ）上位の項目と下位の項目の確認
  - （エ）上位・下位の項目を見たり、両者を比較したりして、気づいたことや、その根拠として考えたこと（体験したこと）を書く。（メモの形で）
  - （オ）内容を整理して、意見文の構成を考える。（教科書99頁参考）
  - （カ）「書き出しの例」や「意見文で使ってみたい言葉」を参考にしながら、意見文を書く。 **＜資料6＞**
  - （キ）発展課題で、もう一度意見文を書いてみる。 **＜資料7＞**
  - （ク）お互いの作品を読み合い、相互評価する。 **＜資料8＞**

《書く》 図表などの資料から文章を書く

三年（ ） 番・氏名（ ）

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書くこと

〔1〕 課題の条件を確認する。（教科書九九ページ）

① 段落構成→（ ） 段落

② 字数制限→（ ） 字以内

③ 何を書くのか→（ ）

〔2〕 資料を正確に読み取る。→わかったことをまとめる。

① 調査名（ ）

② 調査の内容 どのような（ ）

③ 上位二つの項目 第一位（ ）

第二位（ ）

下位二つの項目 第六位（ ）

第七位（ ）

☆上位・下位の項目を見たり、両者を比較したりして、気づいたことや、その根拠として考えたこと（体験したこと）を書いてみよう。（メモでよい）

《例》・考えたこと・気づいたこと（意見）→お手本のように整った言葉よりも、人間関係を豊かにする言葉を美しいと感じる。

・根拠や体験 →職場体験で、お客様から「お寒うございます。」と声をかけられた。

| 気づいたこと | 根拠や体験 |
|--------|-------|
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |
|        |       |

〔3〕 内容を整理して、意見文の構成を考える。（参考・教科書九九ページ）

| 段落め   | 資料（図表）の読み取り                        |
|-------|------------------------------------|
| 一 段落め | →考察（考えたこと・気づいたこと）<br>つまり……といえるだろう。 |
| 二 段落め | 体験をふまえた、自分の考え（結論）                  |

【書き出しの例】

- ・ グラフによると……〇〇が調査で上位であるのに対して、
- ・ このグラフから読み取れることは……
- ・ 調査結果を見ると……

【意見文を書くとき、使ってみたい言葉】

……によると、（情報の出どころ）……だ（ということだ）。  
つまり（「要するに」ということ）

- ……よりも
- ……だろう。
- ……だろうか。
- ……だけではなく……
- ……から
- ……だ。（である）

確かに  
もちろん  
いわば  
ましてや  
たとえ  
しかも  
……でさえ  
すなわち（「言いかえると」）

(3) 学習を終えて〔生徒の感想から〕

ア 今回、「意見文」を書いてみて

- ・書きやすかった（５名）
- ・どちらかという書きやすかった（１８名）
- ・どちらかという書きにくかった（４名）
- ・書きにくかった（１名）

イ 「書きやすかった」「どちらかという書きやすかった」のなぜですか。

（複数回答可）

- ・資料の読み取り方を学んだから……………（１３名）
- ・書き方の作文例（モデル）が示してあったから…（１２名）
- ・書き出しの例が示してあったから……………（１２名）
- ・作文の構成の型が示してあったから……………（１０名）
- ・学習の手順（進め方）がわかりやすかったから……（９名）
- ・課題の内容に関心をもてたから……………（６名）

ウ 「書きにくかった」「どちらかという書きにくかった」のはなぜですか。

- ・文字数に条件があると、うまくまとめるのが難しかったから。
- ・自分の意見をうまく表現できなかったから。
- ・発展課題のグラフをうまく読み取れなかったから。
- ・発展課題では書き出しの例がなく書き始めるのに時間がかかったから。

(4) 学習指導のポイントと考察

ア 「図表などの資料から文章を書く」ということは生徒にとっては①図表などの資料から必要な事項を読み取る→②そのことに対して自分の考えをまとめ、指定された条件の中で意見文を書く、という二段構えの学習活動であるため、作文の苦手な生徒にとっては抵抗感が強いと思われる。そこで、まずは課題の条件については全体で確実に確認した。その後、資料を正確に読み取るポイントとしてグラフ等の上位・下位の項目に注目すること、またその両者を比較することでわかることがあることを伝えた。さらに、そこから自分で考えたり気づいたりしたこと（意見）と根拠や体験をメモの形でまとめさせた。段階的に学習を進めたことで作文の苦手な生徒も学習についてくることができた。

イ メモの形でまとめた後、内容を整理して、意見文の構成を考え、書き出しの例や「意見文を書くとき使ってみたい言葉」の例などを見ながら、意見文を書いてみた。メモの形で、作文の骨組みができていたので、ほとんどの生徒がすぐに書き始めることができた。

ウ 教科書の課題とは別に発展課題を用意して、自分の力を試させてみた。内容の巧拙はあれ、どの生徒も指定された条件に合わせて、原稿用紙いっぱいに意見文を書くことができ、自信になったと思う。

エ 学習後の生徒の感想を見ると、「書きやすかった」「どちらかという書きやすかった」という生徒が、全体の８０％以上を占めていた。その理由として

は、文章の作文例（モデル）が示してあったこと、資料の読み取り方を学んだこと、書き出しの例が示してあったことのほか、学習の手順（進め方）がわかりやすかったと答えている生徒も多かった。

## 7 成果と課題

### （１）成果

- ア 学習の手順を生徒に明確に示すことにより、生徒は学習の流れをつかみ、一時間ごとの目標を達成しながら確実に学習活動に取り組むことができた。
- イ 学習活動の進め方を改善し、段階を踏んだ支援をすることにより、生徒の作文に対する抵抗感が少なくなり、根拠を明確に示しながら自分の考えを書く力が身についてきた。特に、学習シートによって、原稿の書き方の手順が明確に示されていたことで、生徒は原稿作りへの抵抗感が減り、自分自身の立場や考え方をまとめることにエネルギーを使うことができた。
- ウ 作文例や書き出し例を示すことで、生徒はそれを参考にしながら書き進めることができた。「何を」書けばよいかはわかっている、「どのように」書けばよいかはわからないという生徒は多い。また、書き出しの部分でつまづき、なかなか書き始めることができない生徒もいる。そのような生徒のために、「モデル」を示すことが非常に重要なのだと強く感じた。
- エ 導入の工夫、題材の選び方によって、生徒は興味・関心をもって「書く」活動に取り組んでいった。「作文」という言葉のもつ響きをどうしても重く感じてしまう生徒もいるので、できるだけ楽しく興味をひきつけ、「やってみたい。書いてみたい。」と思わせる導入や題材を考えていくことが大切だと感じる。
- オ 交流において、交流・評価カードを使って、互いに作品を読みあったり、評価しあったりすることで、生徒は自分とは異なる視点や表現方法があることを知る。また、自分の作品が友達にどう評価されるかという楽しみがあり、友人からの温かい励ましやアドバイスなどを受けることで生徒は「書いてよかった。」「また、書いてみよう。」という気持ちになり、表現への意欲の高まりがあり、効果的であると思う。

### （２）課題

- ア 学習シートがない状態で、自分だけの力で根拠や構成のしっかりした文章を書くのはまだ難しい生徒がいると思われるので、今後も繰り返し学習を進めていく必要がある。
- イ 鑑賞文の表現については、根拠をおさえて的確な表現ができた生徒と今一つ根拠と主張のつながりがうまくいかない生徒がいたので、今後の課題となる。
- ウ 意見文については、段階的な準備があれば書けるとわかったが、「書き慣れる」という意味で、条件作文や資料から作文を書く練習を繰り返し行う必要があると思う。また、ある程度の時間の中で、すばやく自分の考えをまとめて書くという練習も必要である。

# 資料

## 《書く》「芸術作品の鑑賞文を書く」一年・氏名

〔1〕教科書七十二ページから、作品を一つ選ぶ。

〔作品名〕首々珠の耳飾りの少女

〔2〕「印象―根拠―まとめ」の順で、構成を考える。

★自分が選んだ芸術作品を鑑賞し、「一番強く心に残ったことを書く。《印象》

《印象》 悲しさが感じられた。

《観点を決め、作品から受けた印象の根拠をあげる―全部の観点を書かなくてもよい》

・人物やもの→少女の目から、助けを求めたい感じがした。

・色づかい → 白い背景が黒いので、少女の服や髪の色、肌の色が全体的に暗く見える。

・構成 → 黒い背景の中に少女がアップで中心に描かれているのが、その部分もさういうところの感じがした。

・光と影 → 光があまりなく、かげばかりなので、暗い感じが伝わる。

・題名 →

《まとめ》これらのことから、この絵からは

少女の悲しさが表れる。

である。(だ)

## ◎芸術作品の鑑賞文を書こう。

《文章の構成》

| 初め                                                                                                                                                                                        | 中                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 終わり                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>作品からもうとも強く受けた印象、作品の良さ(魅力)などを書く。</p> <p>【書き出しの例】</p> <p>・この絵は見る人を勇気づけ、明るく前にすすんでいこうという気分させてくれる絵だ。</p> <p>・この絵の魅力は、陽だまりで夢を見ているような楽しい気持ちにさせてくれるところだ。</p> <p>・私はこの絵から少年のさびしさと悲しみを強く感じた。</p> | <p>なぜ、その印象や、作品の良さ(魅力)を感じたのか、その根拠(具体的な特徴)を書く。</p> <p>【書き方の例】</p> <p>・まず、色づかいに注目してみたい。この絵は全体的に明るい色で・・・</p> <p>次に、光と影に注目したい・・・</p> <p>・一つ目は色づかいである。木々の緑が・・・</p> <p>二つ目は構成である。画面の上半分が木々の緑で・・・</p> <p>・私が感じた少年のさびしさは、この絵の色づかいに理由があると思う。また、悲しい印象については、なんといても少年の表情がそう語りかけてくるのだ。少年の目が・・・</p> | <p>全体のまとめ(書き出しと対応した内容にする)</p> <p>【書き方の例】</p> <p>・これらのことから、この絵からは木々と白馬の生命力が感じられるのである。生き生きとした、とても魅力のある絵であると思う。</p> <p>・この色彩と形が、明るく楽しい気持ちにさせてくれるのだろう。くじけそうなときにこの絵を見ると、悩みを忘れ、こころがすつと暗れていくような気持ちになれる。</p> <p>・この光と影の対照的な美しさや色彩の変化が、なんともいえない神秘的な印象を与えているのだ。見てみるとひきこまれるような気持ちになる絵だ。</p> |

## 【表現の工夫】

「うれしい」「美しい」「明るい」などの言葉だけにたよらず、読み手のイメージを広げる表現を工夫して書いてみよう。

例・どこからかきれいな音楽が聞こえてきそう、心はずむ思い  
冷たい雨に一人で打たれているような、さびしさ  
陽だまりで夢を見ているような明るく楽しい気持ち

女工下月。

一年（組）番・氏名（

[illegible]

諸國名所百景尾州名古層

感じ入るたふしや

|   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| を | は | こ | の | 絵  | か | ら | 、 | 中 | 心 | に | あ | る | 鯨 | の | た | く | ま | し | き | を | 引 | く | 感 | じ | た | 。 | そ | の | 根 | 拠 | を | 三 | つ | あ | げ | て | 言 | 明 | し | た | い | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ま | る | で | 生 | き  | て | い | る | よ | う | に | 迎 | り | を | 見 | ま | わ | し | て | い | る | よ | う | に | 見 | え | る | こ | と | か | ら | 鯨 | の | た | く | ま | し | き | を | 感 | じ | し | ら | れ | る | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 二 | つ | 目 | は | 光  | と | 影 | で | あ | る | 。 | 鯨 | の | 尾 | ヒ | レ | の | あ | た | リ | に | 光 | が | 明 | る | と | 描 | か | れ | て | い | る | に | め | 鯨 | が | ま | に | 向 | が | 、 | て | 、 | 然 | ひ | は | わ | て | い | る | よ | う | な | た | く | ま | し | き | と | 感 | い | る | こ | と | が | で | き | る | 。 |
| 三 | つ | 目 | は | 色  | づ | か | い | で | あ | る | 。 | 鯨 | の | ま | わ | り | の | 空 | を | 薄 | く | 色 | を | っ | け | る | こ | と | で | 中 | 央 | に | あ | る | 。 | 鯨 | の | 色 | と | 模 | 樣 | が | 強 | 調 | さ | れ | て | 、 | 活 | 花 | で | た | く | ま | し | き | を | 感 | じ | る | こ | と | が | で | き | る | 。 |   |
| 九 | 方 | で | も | また | 鯨 | は | い | つ | も | と | 変 | わ | ら | な | い | た | く | ま | し | き | を | 感 | じ | る | こ | と | が | で | き | る | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ま | し | き | を | 生  | み | 出 | し | て | い | る | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| こ | れ | ら | の | こ  | と | が | ら | こ | の | 氣 | が | ら | は | 鯨 | の | た | く | ま | し | き | を | 感 | じ | る | こ | と | が | で | き | る | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ま | し | き | を | 感  | じ | る | こ | と | が | で | き | る | 。 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |



《書く》広告を批評する 三年（一）番・氏名（ ）

活動の流れを確認しよう

↓教科書三十八ページ・批評文の例

\*批評・・・物事のもつよさや特性について評価すること。

次の二つの広告「A」を比較して、批評文を書こう

広告コピー

中学生に向けた夏の文庫本フェア の広告

A 「ポケットに入る人生の相棒」

B 「実はポケットポトル数本分で買えるんです」

《確認》①何の広告か。（商品）↓「文庫本」

②誰に対する広告か。↓「中学生」

③どのような時期の広告か。↓「夏」

○二つのコピーについて比べて、自分の考えを書いてみよう。（箇条書き・メモでよい）

| 《批評の観点》                                                            |                                                                       | 《批評の観点》                                               |                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 商品などのような性質を、どんな言葉で、表現したり強調したりしているのか。                               |                                                                       | 商品などのような性質を、どんな言葉で、表現したり強調したりしているのか。                  |                                                                           |
| A                                                                  | 「ポケットに入る」ということばは、が手軽な値段で手に入るという感じがよく表れている。また、ポケットポトルは夏という季節にぴったりの商品だ。 | B                                                     | 「実は」という言葉が、何か特別な秘密があるかのような感じがする。また、「数本分」という言葉が、実際に買えるという具体的なメリットが強調されている。 |
| AとBを比較するとどちらのほうが効果的だと思われるか。（自分の結論・理由）                              |                                                                       | AとBを比較するとどちらのほうが効果的だと思われるか。（自分の結論・理由）                 |                                                                           |
| Bの方が効果的。中学生向けの夏休み、手軽に読める本がほしいという気持ちに訴えている。また、具体的な商品名「ポケットポトル」が印象的。 |                                                                       | Aの方が効果的。手軽に読めるというイメージが強い。また、「人生の相棒」という言葉が、読者の心を捉えている。 |                                                                           |

《書く》広告を批評する 三年（一）番・氏名（ ）

活動の流れを確認しよう

↓教科書三十八ページ・批評文の例

\*批評・・・物事のもつよさや特性について評価すること。

次の二つの広告「A」を比較して、批評文を書こう

広告コピー

中学生に向けた夏の文庫本フェア の広告

A 「ポケットに入る人生の相棒」

B 「実はポケットポトル数本分で買えるんです」

《確認》①何の広告か。（商品）↓「文庫本」

②誰に対する広告か。↓「中学生」

③どのような時期の広告か。↓「夏」

○二つのコピーについて比べて、自分の考えを書いてみよう。（箇条書き・メモでよい）

| 《批評の観点》                                         |                                                               | 《批評の観点》                                                                |                                                                           |
|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 商品などのような性質を、どんな言葉で、表現したり強調したりしているのか。            |                                                               | 商品などのような性質を、どんな言葉で、表現したり強調したりしているのか。                                   |                                                                           |
| A                                               | 「人生の相棒」という言葉が、読者の心を捉えている。また、「ポケットに入る」という言葉が、手軽に読めるというイメージが強い。 | B                                                                      | 「実は」という言葉が、何か特別な秘密があるかのような感じがする。また、「数本分」という言葉が、実際に買えるという具体的なメリットが強調されている。 |
| AとBを比較するとどちらのほうが効果的だと思われるか。（自分の結論・理由）           |                                                               | AとBを比較するとどちらのほうが効果的だと思われるか。（自分の結論・理由）                                  |                                                                           |
| Aの方が効果的。読者の心を捉えている。また、「人生の相棒」という言葉が、読者の心を捉えている。 |                                                               | Bの方が効果的。具体的な商品名「ポケットポトル」が印象的。また、「数本分」という言葉が、実際に買えるという具体的なメリットが強調されている。 |                                                                           |

〔備考〕 広告を批判する 三年（）番・氏名（）

○構成を考える。  
〔頭括型・尾括型・双括型〕

私は「又括」型で批評文を書きます。

中学生に向けた夏の文庫本フェアの広告

**A**「ポケットに入る人生の相棒」 **B**「実はペットボトル数本分で買えるんです」

私は中学生に向けた本の広告ならは、Bの  
コピーよりもAのコピーのほうが効果的である  
と思う。

Bのコピーは、文庫本の値段が安いと感  
じる。しかし、そのコピーは、本の中身、内容  
について、全然書かれていないのではないか  
らうか。これでは、コピーを見た人に本の魅力  
が十分に伝わらず、良書といつても本の値段が  
安いだけの広告に感じられる。つまり、Bのコ  
ピーは、主役が本の中身ではなく値段だけによ  
いとい、てゐるように感じられた。それに対し  
て、Aのコピーは、一ページ目に入るとい  
う言葉から小さくて持ち方はこが簡単というの  
を感じた。しかも、人生の相棒というのは、一  
冊の本の存在が自分を輝かせてくれる、そん  
な素敵な本もあると伝えてゐるのではないだ  
うか。つまり、Aのコピーは、文庫本は持ち  
やすいが簡単でそれぞれに自分を輝かせてく  
れという力もあるということを伝えてゐると思  
う。また、本を読むことの楽しさが感じられ  
て、十分なPRになつてゐると思う。

したが、Bのコピーよりも本を読むことの  
楽しさが感じられるAのコピーのほうが、中学  
生にとつて魅力があると思う。

（書く）広告を批評する 三年（）番・氏名（）

○構成を考える。「頭括型・尾括型・双括型」

私は「尾括型」型で批評文を書きます。

中学生に向けた夏の文庫本フェア

① **A**「ポケットに入る人生の相棒」  
**B**「実はペットボトル数本分で買えるんです」

広告のフロビに於いて中学生の心をいかに  
 かむかという点で、私が一番大切だと思うこと  
 は、興味を引く、という点だ。例えば一人の中  
 学生が、読書感想文を書いた時の文庫本を買い  
 に書店へ行、たとえそう。そこで「ペ」トポト  
 ル教本」という、文庫本とほまゝで関係のない  
 言葉が目に入れ過ぎ、と興味を引き、き、とそ  
 の「コーナ」を見、みたくなるだろう。これに対  
 し、一歩引、トに入る金の相場」というフロビ  
 ーも、その文庫本の小ささや手軽さが感じられ  
 て悪くないと思うが、読書感想文を書こうとす  
 る中学生にと、それは、やや重く受け取、まし  
 うまうな印象がある。ならば、このフロビは中  
 学よりも、と年上の層に向ける、伝え方か効  
 果的だと思ふのである。次に、実は買える  
 んです」という表現について考えてみる。もと  
 もと私たちは文庫本がさほど高いものではないこ  
 とを知っている。それにもかゝる表現は、買いや  
 すい値段だ、ことを自分たがに、そりと教えて  
 くれるような、特別感があるように思う。もし  
 て、今が夏だ、ということが「ペ」トポトル  
 に、ま、ま、依り、てくわ。  
 以上のことから、Aのフロビよりも手軽さ、  
 買らしさ、何よりも心をつかむフロビとして、  
 の方が更に良いと思うのである。

《書く》広告を批評する 三年（一）番・氏名（ ）

○構成を考える。「頭括型・尾括型・双括型」

私は「双括型」型で批評文を書きます。

中学生に向けた夏の文庫本フェア の広告

A「ポケットに入る人生の相棒」 B「実はペットボトル数本分で買えるんです」

中学生に向けた夏の文庫本フェアの広告という  
ことを考えてみると、Aのコピーより  
Bのコピーの方が中学生をひきつける力をも  
ていると思う。  
Aのコピーは、本の大きさと本を読ぶものし  
ろさを表現の仕方を工夫して伝えているもので  
ある。「ポケットに入る」という言葉も入る  
ことで、持ち運びに困らないということかあか  
り、電車の中にいる時などのおいた時間にも手  
軽に取り出せるというところがある。そのため  
このコピーは、会社への通勤の時などに電車に  
多く乗る社会人に向けた広告のように感じられ  
るのである。それに對して、Bのコピーは、ペ  
ットボトル数本分で買えるという言葉を入れる  
ことにより、中学生が一番大事にしていると思  
っているお金をあまり使わずに買えるんだと思  
い込ませて、「それだ、たう買おうかな」という  
ように気持ちの変化を促している。初めて買うと  
いう行動になる。この流れが多くの考えである。  
このことからわかることは、こういって考えを  
もつのは僕が中学生だからなのかなと思う。  
したがって、中学生に向けた夏の文庫本フェア  
Aの広告は、AのコピーよりもBのコピーの方  
が中学生をひきつける力をもっているとは、  
思うのである。

《書く》広告を批評する 三年（一）番・氏名（ ）

○構成を考える。「頭括型・尾括型・双括型」

私は「双括型」型で批評文を書きます。

中学生に向けた夏の文庫本フェア の広告

A「ポケットに入る人生の相棒」 B「実はペットボトル数本分で買えるんです」

私は広告のコピーについて考えてみた。私は  
中学生に向けた夏の文庫本フェアの広告コピーな  
りよりAのほうがいいと思う。  
なぜなら、Aは「ポケットに入る」というと  
ころから、文庫本は小さく、いつでもどこ  
も持ち歩けるし、「人生の相棒」というところ  
から、買ってからいつでも一緒という感じがす  
るのだからいいと思う。でもBは、「ペットボ  
トル数本分で買えるんです」というところから、家  
く買えるという部分が強調されすぎてい  
った後のことは何にも考えていないんだと思  
い、そして、お金のことをしか考えてないんだ  
と思った。しかも、Aはしっかりと文庫本の内  
容的にいいところを紹介しているのに、Bはそ  
ういまいとところを紹介していないし、さ  
まざまざまと価格のことしか広告に載せてい  
ない。さすがに私は、BよりAの広告のほうが文  
庫本を読みたいと思わせることができるし、文  
庫本を買いたいと思わせることができる。この  
のでは、私が考える。  
したがって、私はBよりAのコピーのほうが説  
得力がある。私は、中学生の心にもひくと思  
えるのである。

《書く》広告を批評する 三年（）番・氏名（）

批評文を互いに読み合おう

①友達の批評文を読んで、広告のコピーに対する批評について「おもしろい」「なるほど!」と思った点を書いてみよう。

|    |                                           |                                                                                               |
|----|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | より                                        | 「<br>BのCはDの主権を有する」とある。中学位向リでは無いといふことを示すたリては、主権的の別は何を出してゐないから、分り易い。                            |
|    | より                                        | 私は価値に注目し、意見を書いたりして、価値より<br>内容より考へるという考えがあるが、我々、資本家<br>として、客觀や金利などという考へ方をよく所成とし、こ<br>う改良したくない。 |
| より | 「<br>中學生以外の視的で理由をつくつて差別化<br>してゐる」として文了した。 |                                                                                               |

②友達の批評文を読んで、参考になると思った文章の構成や表現の工夫（言葉の使い方）を書いてみよう。

例・最初に結論がはつきりと書いてあるのでわかりやすい。等

|                  |                                                                                                       |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「<br/>より」</p> | <p>両方のよりを出しつつも、BのよりはAのよみだしいという主張<br/>ができています。Bのつばいはよくないというだけで、何のま<br/>障は納しているのか、太極について、すごく分かりやすい。</p> |
| <p>「<br/>より」</p> | <p>Aの言をまじへて、かりと書いて、Bについて、た何いかな<br/>と云うたけれど、もとこうしたら良いとも書いてある。<br/>理解が感じやすいです。</p>                      |
| <p>「<br/>より」</p> | <p>A・B両方の良さをまとめたつつも、取後に理由を挙げて<br/>なにがうかがえるかを、よりをいいたと思う。</p>                                           |

### 資料5

〈書く〉広告を批評する 三年（ ）番・氏名（ ）

批評文を互いに読み合おう

①友達の批評文を読んで、広告のコピーに対する批評について「おもしろい」「なるほど!」と思つた点を書いてみよう。

[illegible]

②友達の批評文を読んで、参考になると思った文章の構成や表現の工夫（言葉の使い方）を書いてみよう。

例・最初に結論がはつきりと書いてあるのでわかりやすい。等

|                                                                                   |                                                     |                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 「<br>より」                                                                          | 「<br>より」                                            | 「<br>より」                                                                      |
| <p>ねえ、型を傷つくと、その後の力も、う傷を論ずるに<br/>値えりません。目録もあがりやう。A、Bのよいところを<br/>フルに書かれています。よい。</p> | <p>「お手軽」など自分たのが、実際につかっている集で<br/>書かれてゐるので、参考にした。</p> | <p>自分のやり方、しるし、など、なにか、<br/>買かた、で、読んで、わかった、ところ、を、<br/>、書、き、か、た、す、り、と、ま、し、て、</p> |

資料6

《書く》 図表などの資料から文章を書く

三年（ ）番・氏名（ ）

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう

〔1〕課題の条件を確認する。（教科書九九ページ）

①段落構成→（二）段落

②字数制限→（二百）字以内

③何を書くのか→（クラフが）羨ましいこと

（それについての自分の体験に基づく考え）

〔2〕資料を正確に読み取る。↓わかったことをまとめる。

①調査名（国語に関する世論調査）

②調査の内容（どのような言葉が美しい日本語）

③上位二つの項目 第一位（思いやりのある言葉）

第二位（挨拶の言葉）

下位二つの項目 第六位（挨拶の言葉）

第七位（アナウンサーや俳優などの語り手）

☆上位・下位の項目を見たり、両者を比較したりして、気づいたことや、その根拠として考えたこと（体験したこと）を書いてみよう。〔メモでよい〕

《例》・考えたこと・気づいたこと（意見）↓お手本のように整った言葉よりも、人間関係を豊かにする言葉を美しいと感じる。

・根拠や体験 ↓職場体験で、お客様から「お寒うございます。」と声をかけられた。

| 気づいたこと                                                              | 根拠や体験                                                |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 誰かが作った言葉をそのままよんでいるのは相手には聞きやすくはないから言葉の使い方が自分を知って、よく考えて言葉のちがいが美しいと思う。 | 全同婦人の時に、四りは光輝しかりなく一人だけ自分についているし、べりかけく木をり、べりやうとしてく木と。 |

《書く》 図表などの資料から文章を書く

三年（ ）番・氏名（ ）

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう

〔1〕課題の条件を確認する。（教科書九九ページ）

①段落構成→（二）段落

②字数制限→（二百）字以内

③何を書くのか→（クラフが）羨ましいこと

（それについての自分の体験に基づく考え）

〔2〕資料を正確に読み取る。↓わかったことをまとめる。

①調査名（美しい日本語 国語に関する世論調査）

②調査の内容（どのような言葉が美しい日本語）

③上位二つの項目 第一位（思いやりのある言葉）

第二位（挨拶の言葉）

下位二つの項目 第六位（挨拶の言葉）

第七位（アナウンサーや俳優などの語り手）

☆上位・下位の項目を見たり、両者を比較したりして、気づいたことや、その根拠として考えたこと（体験したこと）を書いてみよう。〔メモでよい〕

《例》・考えたこと・気づいたこと（意見）↓お手本のように整った言葉よりも、人間関係を豊かにする言葉を美しいと感じる。

・根拠や体験 ↓職場体験で、お客様から「お寒うございます。」と声をかけられた。

| 気づいたこと                                                          | 根拠や体験                              |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 決まりきった台本の言葉や地方ごしか使えない言葉や言葉よりも挨拶の言葉や思いやりのある言葉のちがいが日本人らしく美しいと感じる。 | 自分の地域で部活帰りや学校帰りにあふれしや「あかえ」と声をかけられた |

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう (1)

三年 (一) 番・氏名 ( )

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| グ | ラ | フ | に | よ | ろ | と | 思 | い | や | り | の | あ | た | い | や |
| 「 | 後 | 援 | の | 言 | 葉 | 」 | か | 訓 | 育 | い | 美 | し | い | と | 感 |
| く | い | ん | 」 | つ | ま | り | 美 | し | い | 日 | 本 | 語 | は | 人 | を |
| つ | こ | と | か | し | さ | ら | 言 | 葉 | が | 人 | と | の | 会 | 話 | で |
| い | る | 言 | 葉 | と | い | え | る | に | わ | ら | う | 。 |   |   |   |
| 家 | の | 梨 | 屋 | の | 手 | 伝 | い | を | し | て | い | る | 時 | に | 私 |
| い | け | ど | 、 | が | ん | ば | れ | し | と | お | 客 | 様 | に | 声 | を |
| そ | の | 言 | 葉 | で | お | 客 | 様 | と | つ | な | か | れ | た | の | で |
| 感 | じ | ら | れ | た | の | で | あ | る |   |   |   |   |   |   |   |

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう ①

三年 (一) 番・氏名 ( )

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| グ | ラ | フ | に | よ | ろ | と | 思 | い | や | り | の | あ | た | い | や |
| 「 | 後 | 援 | の | 言 | 葉 | 」 | か | 訓 | 育 | い | 美 | し | い | と | 感 |
| く | い | ん | 」 | つ | ま | り | 美 | し | い | 日 | 本 | 語 | は | 人 | を |
| つ | こ | と | か | し | さ | ら | 言 | 葉 | が | 人 | と | の | 会 | 話 | で |
| い | る | 言 | 葉 | と | い | え | る | に | わ | ら | う | 。 |   |   |   |
| 家 | の | 梨 | 屋 | の | 手 | 伝 | い | を | し | て | い | る | 時 | に | 私 |
| い | け | ど | 、 | が | ん | ば | れ | し | と | お | 客 | 様 | に | 声 | を |
| そ | の | 言 | 葉 | で | お | 客 | 様 | と | つ | な | か | れ | た | の | で |
| 感 | じ | ら | れ | た | の | で | あ | る |   |   |   |   |   |   |   |

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう (1)

三年 (一) 番・氏名 ( )

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | ラ | フ | に | よ | ろ | と | 思 | い | や | り | の | あ | た | い | や |
| 「 | 後 | 援 | の | 言 | 葉 | 」 | か | 訓 | 育 | い | 美 | し | い | と | 感 |
| く | い | ん | 」 | つ | ま | り | 美 | し | い | 日 | 本 | 語 | は | 人 | を |
| つ | こ | と | か | し | さ | ら | 言 | 葉 | が | 人 | と | の | 会 | 話 | で |
| い | る | 言 | 葉 | と | い | え | る | に | わ | ら | う | 。 |   |   |   |
| 家 | の | 梨 | 屋 | の | 手 | 伝 | い | を | し | て | い | る | 時 | に | 私 |
| い | け | ど | 、 | が | ん | ば | れ | し | と | お | 客 | 様 | に | 声 | を |
| そ | の | 言 | 葉 | で | お | 客 | 様 | と | つ | な | か | れ | た | の | で |
| 感 | じ | ら | れ | た | の | で | あ | る |   |   |   |   |   |   |   |

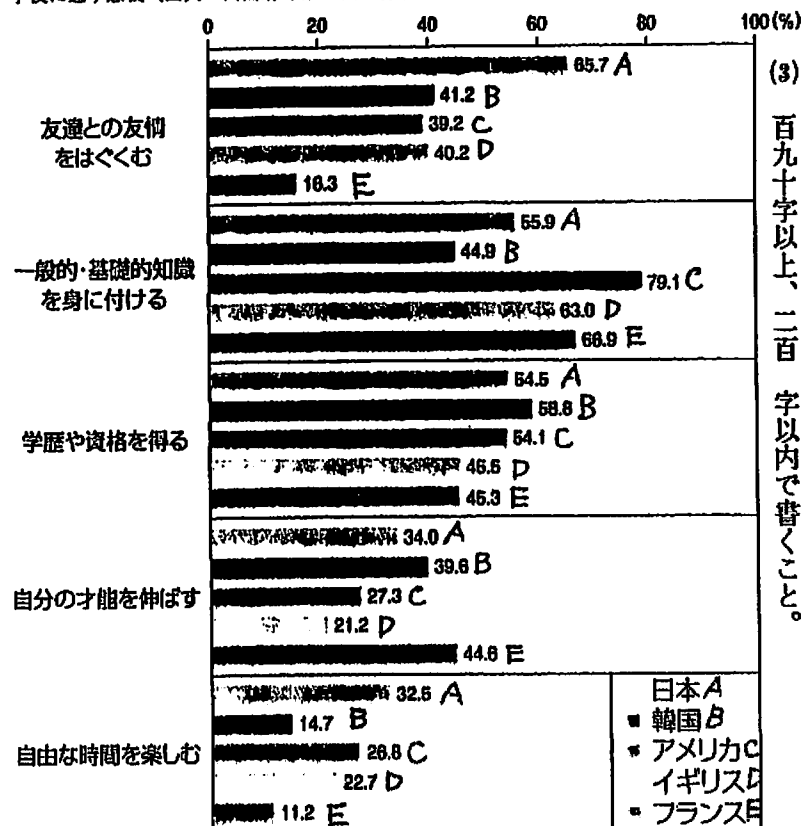
課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう ①

三年 (一) 番・氏名 ( )

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | ラ | フ | に | よ | ろ | と | 思 | い | や | り | の | あ | た | い | や |
| 「 | 後 | 援 | の | 言 | 葉 | 」 | か | 訓 | 育 | い | 美 | し | い | と | 感 |
| く | い | ん | 」 | つ | ま | り | 美 | し | い | 日 | 本 | 語 | は | 人 | を |
| つ | こ | と | か | し | さ | ら | 言 | 葉 | が | 人 | と | の | 会 | 話 | で |
| い | る | 言 | 葉 | と | い | え | る | に | わ | ら | う | 。 |   |   |   |
| 家 | の | 梨 | 屋 | の | 手 | 伝 | い | を | し | て | い | る | 時 | に | 私 |
| い | け | ど | 、 | が | ん | ば | れ | し | と | お | 客 | 様 | に | 声 | を |
| そ | の | 言 | 葉 | で | お | 客 | 様 | と | つ | な | か | れ | た | の | で |
| 感 | じ | ら | れ | た | の | で | あ | る |   |   |   |   |   |   |   |

### 資料 7

学校に通う意義（出典：内閣府「第8回世界青年意識調査」平成20年実施）



**資料活用作文** 次のグラフは、日本・韓国・アメリカ・イギリス・フランスの十八歳から二十四歳を対象に、学校に通う意義について調査した結果を表したものである。このグラフを参考にして、学校に通う意義は何かについて、あなたの意見を書きなさい。ただし、次の条件に従うこと。

【条件】

(1) 前段に、グラフを見て気づいたことを書くこと。

(2) 後段に、前段で書いたことをふまえて学校に通う意義は何

かについて意見を書くこと。

(3) 百九十以上、二百字以内で書くこと。

明治図書 平成29年度版「整理と対策・国語」より

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書こう

三年( )番・氏名( )

課題を把握し、論理の展開に注意して、意見文を書く

②

三年(番・氏名)

けろしといふ答へがどの國も全体的に多く、  
 自由な時間を棄れむしといふ答へが少なく、こ  
 がわかる。どの國も、やはり学校は常識を學び  
 場として常識が大きいものさう。  
 この結果からわかるように、ねのちでも学  
 校は常識をマナーを學ぶ場であるといふ考えが  
 大まかに。社会に出るための準備として、学校と  
 いふ場でその段階を踏む。學習面でも生活面  
 でもマナーを知りたためる場であり、私は思う。

|   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|----|
| に | た | を | 行 | 識 | グ  |
| 付 | 私 | を | く | を | ワ  |
| け | 日 | を | た | 身 | を  |
| る | や | を | め | に | 見  |
| た | や | を | に | 付 | て  |
| め | の | を | 通 | り | 全  |
| に | の | を | て | る | 体的 |
| 学 | 下 | た | い | 成 | に  |
| 校 | は | め | 万 | 多 | 一  |
| へ | は | に | の | く | 般  |
| 通 | 友 | 通 | で | 自 | 的  |
| う | 達 | て | は | 由 | 基  |
| の | と | い | な | 時 | 礎  |
| た | 自 | る | く | 間 | 例  |
| と | 由 | と | 自 | を | 知  |
| 思 | に | い | 分 | 来 |    |
| つ | 遇 | く | の |   |    |
|   | う | こ | 将 |   |    |
|   |   | と | 来 |   |    |

## 資料8

三年( )番・氏名( )

【評価】 A・B・C・Dで記入する。

|     |   |   |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                     |
|-----|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 記入者 |   |   | ①課題の条件に合わせ<br>て書いてい<br>るか。<br><br>②資料を正<br>確に読み取<br>っているか。<br><br>③根拠を明確<br>に示して自分<br>の考えを書い<br>ているか。 | 一言感想                                                                                                                                                                                |
| A   | A | A |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                     |
| A   | A | A |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                     |
| A   | A | A | 目のつけ所がよいと思えた。なにかやむと<br>思えた。根拠や見て感ぜられたこと、べしど<br>り書かれて、誤解のり、あまのあたりに。                                    | <p>         痛ドに他の国と比べイオイも、日本<br/>         はまだまじだと思えた。根拠も詳し<br/>         く書かれてイイすこいと思えた。<br/>         日本のケラフと他の国のケラフを比べ<br/>         ていて、そのようには考えをきかたなく<br/>         思えた。       </p> |
|     |   |   |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                     |
|     |   |   |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                     |

〈交流を絶えて〉

☆友達の意見文を読んで（友達の良かった点など）

やはり、人としての考えや、いふ言ひが、あつて面白かつた。

世人によつて最後の事や答へが還つてゐる。――「たゞそれだ」といふた答へがあらうと云ふれた。

☆友達からの評価を眺んで（自分の作品についての振りかえり・感想・反省）

大作を書いたつもりはないが、ほめられていてうれしかった。

また、他の人の作品を翫んで、また改善の余地がある、と。

三年( )番・氏名( )

【評価】A・B・C・Dで記入する。

|                         |                                                                                           |                                                                                |                                                                                                   |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 記入者                     |                                                                                           |                                                                                |                                                                                                   |
| ①課題の条件に合せて書いていますか。      | A                                                                                         | A                                                                              | A                                                                                                 |
| ②資料を正確に読み取っているか。        | A                                                                                         | A                                                                              | A                                                                                                 |
| ③根拠を明確に示して自分の考えを書いているか。 | A                                                                                         | A                                                                              | A                                                                                                 |
| 一目感想                    | <p>「どう国も」を入れたら、結構たりきき<br/>         着いてて世界を捉えを思ていよと、うん<br/>         と、何と、うん、と、納得しちゃうわ、</p> | <p>「いかり」を結構で、自分加思、た<br/>         ことを、まけて知れて、ど、てし<br/>         跡おや、よく其感かまた。</p> | <p>「グー」から読んだ、た、い、た、た、た、<br/>         こと、共感、た、た、自分、の、考え、た、た、た、<br/>         だ、い、た、た、た、た、た、た、た、</p> |

（交流を結んで）

☆友達の意見文を読んで（友達の良かった点など）

ほとんが同じ意見だ、たいていみんなさ、その義理のし方を書き方が、様で、感動する。なまほごなど思った。

☆友達からの評価を聴んで（自分の作品について）の振りがえり・感想・反省

「分かりやすい」や「共感した」など、言ってもらえようかしらねえ。

自分の意、果を大きく書けたところによかったと思ふ。